

曹 洞

事故を風化させず

群馬県寺族会（明峰敦子会長）は、「秋の研修会」を仁叟寺（高崎市）を仁叟寺（高崎市）啓司宗務所長は「飯塚氏は高齢ながらも、朴訥な話し方で当時の様子を語っていたとき、講演後は拍手がしばらく鳴りやまず、本当にいい講演会だった。この悲惨な事故を風化させず、56名を決して風化させてはならない」と語っている。

●開講式の後、犠牲者520名の物故者慰霊法要を勤め、引き続き、事故当時、高崎署刑事官として身元確認班長となった飯塚訓氏が『墜落現場 遺された人たち』と題して講演。飯塚氏は事故現場の様子を時折、涙ながらに語り、出席した寺族の中には涙を拭いながら聞く人もいた



曹洞宗群馬県宗務所が主催し、有志が合同で慰霊登山を行ったが、渡辺啓司宗務所長は「飯塚氏は高齢ながらも、朴訥な話し方で当時の様子を語っていたとき、講演後は拍手がしばらく鳴りやまず、本当にいい講演会だった。この悲惨な事故を風化させず、56名を決して風化させてはならない」と語っている。

小堀会長が業

事故を風化せず

群馬県寺族会（明峰敦子会長）は、「秋の研修会」を仁叟寺（高崎市）で26日に開催した。今年には日本航空123便墜落事故から30年の節目にあたるが、墜落事故の地元として事故を風化させまいと、講演には日航機事故の語り部を招き、56名の参加者が熱心に耳を傾けた。

◎開講式の後、犠牲者520名の物故者慰霊法要を勤め、引き続き、事故当時、高崎署刑事官として身元確認班長となった飯塚訓氏が『墜落現場 遺された人たち』と題して講演。飯塚氏は事故現場の様子を時折、涙ながらに語り、出席した寺族の中には涙を拭いながら聞く人もいた

◎今年7月22日には曹洞宗群馬県宗務所が主催し、有志が合同で慰霊登山を行ったが、渡辺啓司宗務所長は「飯塚氏は高齢ながらも、朴訥な話し方で当時の様子を語っていたとき、講演後は拍手がしばらく鳴りやまず、本当にいい講演会だった。この悲惨な事故を決して風化させてはならない」と語っている。